



JOGMEC

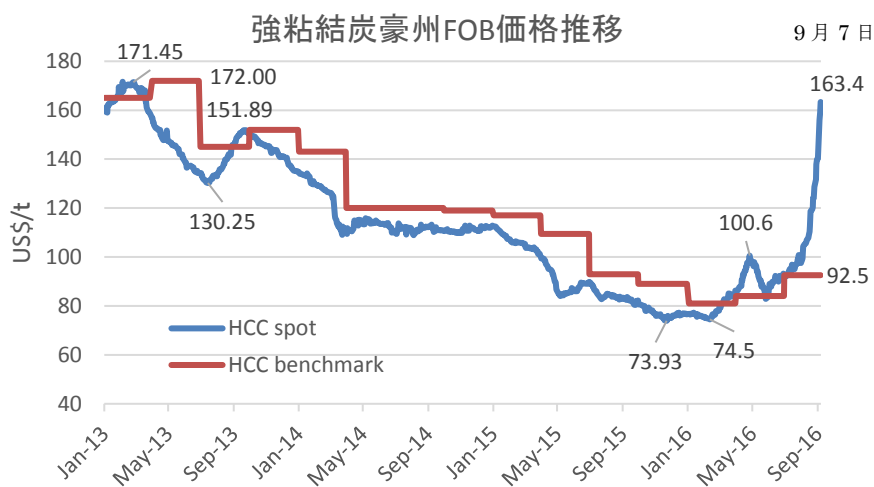
カレント・トピックス

独立行政法人 石油天然ガス・金属鉱物資源機構

石炭開発部 石炭開発課

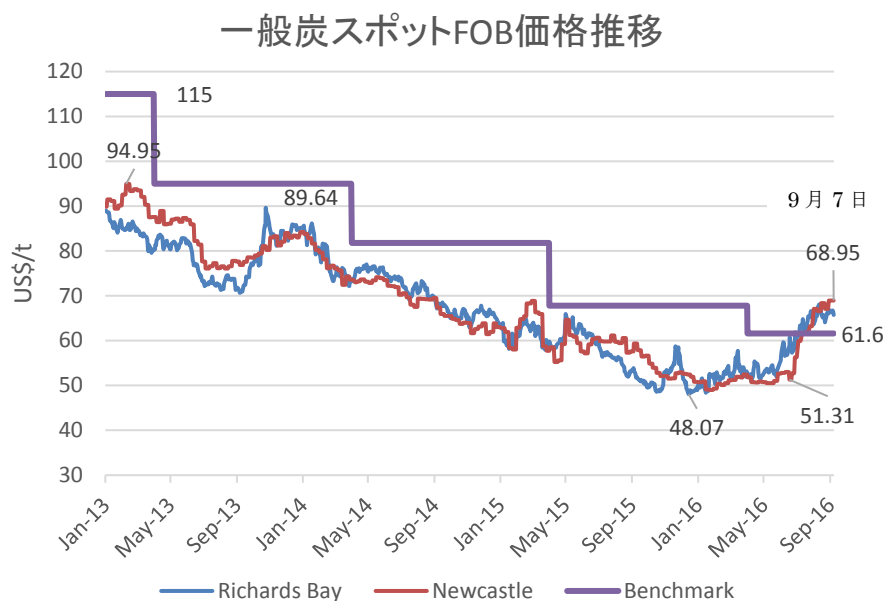
石炭価格推移と最近の石炭価格上昇への影響要因

1. 原料炭及び一般炭価格推移



出所：Argus Media

注：Benchmark は日本の鉄鋼会社と豪州炭サプライヤーとの契約価格



出所：Argus Media

注：Benchmark は日本の電力会社と豪州サプライヤーとの4月起こし契約価格

2. 中国の石炭生産量の大幅減少

鉄鋼と石炭産業については、供給側改革の最重点産業とされており、2016年2月に国務院より通達された「石炭産業の過剰生産能力解消と脱苦境並びに発展実現に関する意見」において、今後3~5年で低効率炭鉱の閉鎖等にて生産能力の5億トン/年削減に加え、炭鉱の稼働日数を年間276日とする「276日規定」（従来は330日）により、生産削減が示達された。

現時点まで、厳格に運用されており、2016年1~7月の中国全国の石炭生産量は19.0億トンと、前年同期比10.1%減（2.1億トン減少）となっている。

中国石炭工業協会によると1~6月の総需要も約5%減少しているが、生産量の減少が大きく、6月末時点で、約9千万トンの在庫が減少したと推定される。

3. 天候起因による生産・供給量の減少

中国では、上記減産に加え、7月~8月中旬にかけ石炭の最大生産地である山西省（中国石炭生産量の25%程度、原料炭では4割強）における豪雨により、生産・出荷が停滞している模様。

また、豪州QLD州でも降雨により、生産への影響が出ている。

いずれも、原料炭供給量への影響が大きい。

4. 石炭価格低迷による炭鉱の休止・閉山、新規開発の遅れによる石炭生産量の低迷

① 最大の石炭輸出国である豪州では、多くの炭鉱開発計画が延期または中止され、生産量が伸び悩む。

② 世界最大の一般炭輸出国であるインドネシアでの生産量及び輸出力の減少(2016年1~6月輸出力前年比7%減)

③ 最近までの世界的な石炭価格低迷により多くの炭鉱で生産量の減少、休止、閉山が起こったため、マーケットがタイトとなり、価格が上昇傾向にある

④ 米国では、全米第1位のPeabody、第2位のArch Coal、第4位のAlpha Natural Resourcesなど多くの会社が経営破綻（各社は再建中）

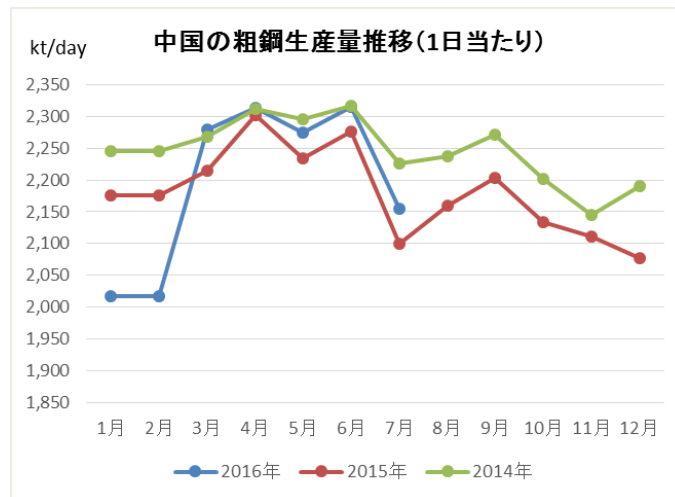
⑤ 有力な原料炭ソースであるカナダでは、従来多くの石炭会社が原料炭を生産していたが、2016年に入りTeck Resources 1社となった。

⑥ 原料炭に関しては、高品位炭（強粘結炭）の供給地が、限られている（豪州QLD州、カナダ、米国等）。

5. 中国の石炭消費産業の動向

(1) 鉄鋼（原料炭）

中国の粗鋼生産量は、2014年をピークに減少傾向となり、2016年1~2月の1日当りの粗鋼生産量は前年同月比7%減であった。しかし、3月以降一転して大幅増産され、過去最高レベルに達している。中国政府による公共投資へのてこ入れがあったとされている。



出所：World Steel Association

(2) 発電（一般炭）

中国のエネルギー需要の伸びの鈍化により、2015年の総発電量は5,618TWhで前年比0.2%減少し、火力発電量は4,210TWhで2.8%減と大きく減少した。

2016年1~6月もその傾向が継続し、総発電量は2,760TWhで前年同期比1.0%増の低い伸び、火力発電量は2,058TWhで3.1%減であった。しかしながら、7月は総発電量7.2%増、火力発電量も4.4%増と一転して高い伸びを示した。国家发展改革委員会の発表によると、昨年の冷夏から、7月は全国的に高温であったことも影響しているとのこと。

6. 中国の輸入増加

中国の石炭輸入量は2013年の3.27億トン进行ピークに、2014年2.92億トン、2015年2.04億トンと減少してきたが、2016年に入り（特に3月以降）増加に転じている。

2016年1~6月では、石炭合計で1.08億トン、前年同期比8.3%増となっており、特に原料炭の輸入量が25%（540万トン）増と大幅に増加している。

7月は前年の輸入量が多かったことから、前年比では横ばいだが、2,121万トンと高いレベルを維持しており、特に一般炭の輸入量が932万トンと1~6月平均の677万トンから大幅に増加している（38%増）。

税関総署の速報では、8月の石炭合計の輸入量は2,659万トンで、前年同月比52%増と更に大幅な増加となっている。

7. 豪州での強粘結炭価格上昇背景

以上のように、中国の生産抑制を主因に特に原料炭の需給が逼迫している。在庫が減少しているところ、中国のトレーダーなどは期近積みの玉を求め、サプライヤーの言い値で高品位強粘結炭をスポット契約し、また、サプライヤー側は、中国トレーダーなどの足元を見てオファー価格を吊り上げていることから、強粘結炭のスポット輸出価格の上昇が一向に止まらない状況が生じている。

原料炭の場合、貿易量の90%以上が需要家企業と生産者企業間の直接取引により長期契約されてお

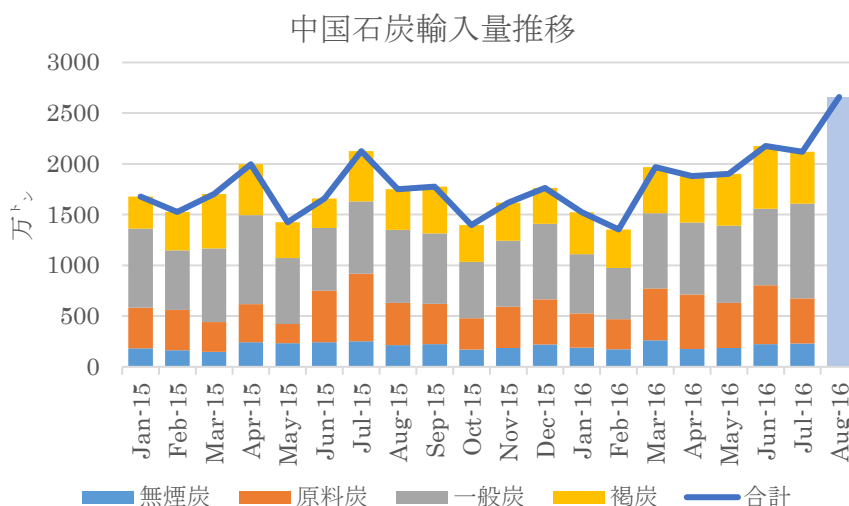
り、スポット取引の比率は1割に満たないとされている。中国の政策等により供給が大幅に減少して需給が逼迫した中での、天候等による供給の減少が、市場が小さい故に大きな価格変動を招いていると言えよう。

8. 中国政府の対応

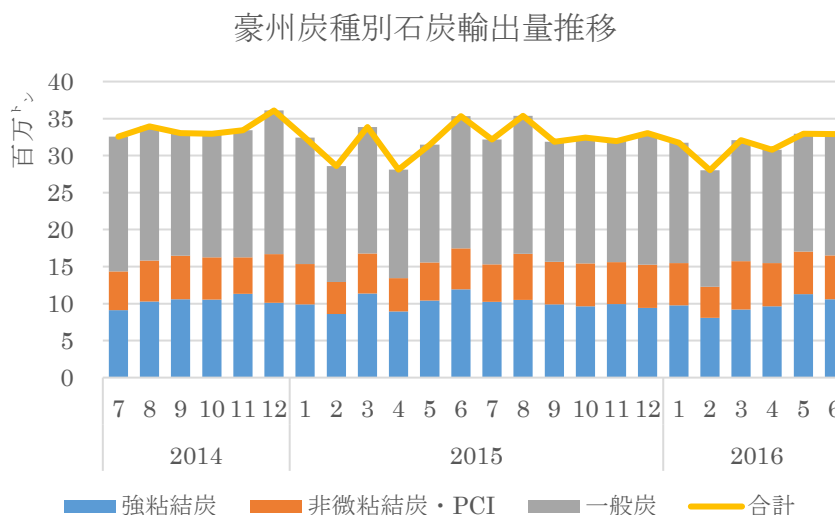
中国国内の報道によると、中国国家発展改革委員会が中心となり、石炭価格の急騰を緩和するため、一部の優良炭鉱の稼働日数を年間276日から330日に戻すことによる、生産量の回復を検討している。約70カ所の炭鉱が対象となり、月間800～900万トン、年間では1億トン程度の増産となる見通しとされている。

【参考資料】

1) 中国石炭輸入量推移 (2015年1月～2016年8月)



2) 豪州石炭輸出货量推移(2014年7月～2016年6月)



単位：千トン

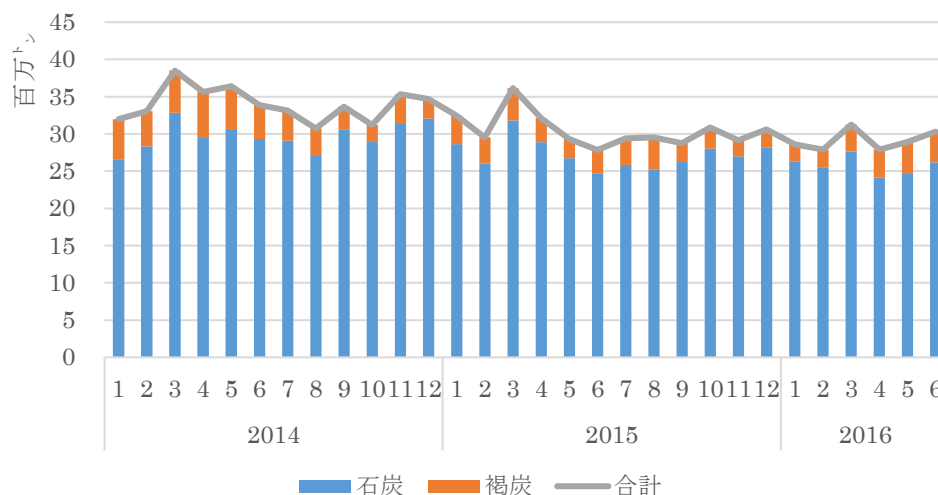
	2014年	2015年	2015年1-6月	2016年1-6月
強粘結炭	121,416	120,631	61,088	58,836
非微粘・PCI・他	64,949	64,795	30,481	34,071
一般炭	200,887	201,866	98,309	96,375
合計（千トン）	387,412	387,398	189,878	189,865

出所：テックスレポート

注：統計上の合計値が若干合わない

3) インドネシアの石炭輸出量推移

インドネシア石炭輸出量推移



	2014年	2015年	2015年1-6月	2016年1-6月
石炭（瀝青・亜瀝青炭）	356,250	327,182	166,779	154,267
褐炭	51,963	38,541	20,661	20,596
合計（千トン）	408,185	365,723	187,440	174,862

出所：インドネシア貿易統計

以上

おことわり：本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構資料からの引用であることを明示してくださいようお願い申し上げます。